

自分の周りの自然を 気づく、 思う、 そして愛しむ。

京都市立第三錦林小学校 読み聞かせボランティア「お話の旅」読み手代表

レウナキ・マイラ

秋～葉 木の実 ●『そらいろのがみ』 ながしまひろみ さく・え

えほんのぼうけん 100 岩崎書店 (読んだ日 2020年2月26日)

『そらいろ』が織りなす美しい世界の中でお父さんは愛娘の為にある仕掛けをかけます。わくわくしたり、季節が変わってゆくことを身体とこころで感じ取ることのできる娘を、最後に待っているのは、子どもにとって年に一度しかない一番嬉しい日です。分かりやすい線で描かれている、お父さんの自然と、娘に対する愛情。そして、顔を見せてくれないけれどいつも見守っているお母さん。読み手も聞き手も和ませてくれる絵本、癒してくれる絵本です。

冬～冬の海 ●『おーい、こちら灯台』 ソフィー・ブラッコール さく

山口文生やく 講談社 2019年コールドコット賞受賞 (2019年4月20日)

絵なのか細かい刺繍なのか、うっとりする絵ですが、だれもが一度この絵の中に入りたいのではないのでしょうか。物語の舞台は灯台です。が、主人公は海の波です。灯台守の憧れる日常や、ときに困難、そして思わぬ幸せな出来事が、いつも海に囲まれ守られ、流れよく描かれています。私はこの絵本をよく読みますが、ただただ頁をめくってその頁の波を静かにじーっと見つめて物語の世界を味わっています。大人も、勿論子どもも楽しめる絵本だと思います。

春～桃色 黄色 ●『3人のママと 3つの おべんとう』 クク・チスン 作

斎藤真理子 訳 ブロンズ新社 (2020年1月25日)

韓国の絵本は大好きですが、中でもやはりこの絵本が一番。同じマンションに住む3人の韓国ママ。雰囲気も性格もお仕事も違うけれど、どのママも朝になると我が子のお弁当作りに奮闘します。バタバタ、ドキドキ。やっとのことで終わる時、ふっと気づくと、そこは色でしか表すことのできない、美しい春の到来を、ママ達は目で、身体で、こころの中で、感じます。絵本の黄色は読者にも大きな幸せを運び春を感じさせます。どうぞ！

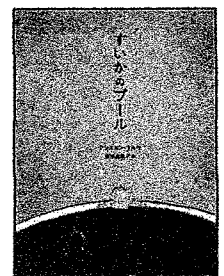
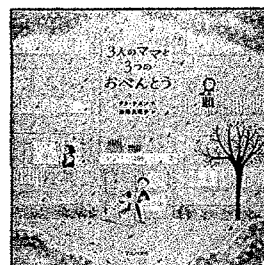
夏～すいか ●『すいかのプール』 アンニョン・タル 作 斎藤真理子 訳

岩波書店 (2018年7月19日)

「すいかを食べて夏の暑さを乗り切る」という暑さ対策は知っていましたが、この絵本の暑さ対策には驚きました。何しろ羨ましくて私もすぐに「すいかのプール」に入りたいなあ！としみじみ思いました。だって、この絵本の村では毎年夏にすいかのプールがプール開きして、大人も子どももとっても楽しく入れて遊んで、暑さで疲れた身体を涼めてほっこりしています。

色鉛筆とクレヨン
表現されています。

で描かれているすいかは、ますますジューシーに
暑い暑い日に読んでほしい絵本です。涼しい♪



テーマ「ともだちになれる？」

『世界のあいさつ』長新太／さく 福音館書店 1989年

世界の人たちと仲良くなりたいと思った時、それぞれの土地のあいさつを知るのも一つの方法かもしれません。この本ではあいさつの言葉ではなく、しぐさを紹介しています。相手の臭いを嗅ぐあいさつ、ぺろりと舌を出すあいさつ、ツバを吐きかけるあいさつ、などなど。ふしぎなあいさつがいっぱいで、びっくりです。

『野生のゴリラと再会する』山極寿一／著 くもん出版 2012年

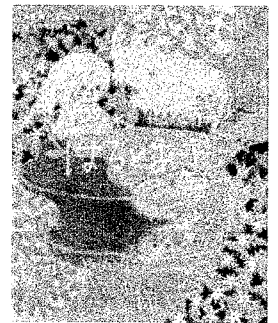
著者の山極さんは、28歳の時、アフリカの森でゴリラの群れの中でゴリラのようにふるまい、当時6歳だったゴリラのタイタスと仲良しになります。事情があり、タイタスと別れなくてはなりません。26年後再びタイタスに会いに行きます。タイタスは群れのリーダーになっていました。タイタスは、山極さんを覚えていたでしょうか？

『天才コオロギニューヨークへ』ジョージ・セルデン／作 吉田新一／訳 あすなろ出版 2004年 (『都会にきた天才コオロギ』学習研究社 1974年刊行の改題・新装改訂)

コオロギのチェスターは、田舎から大都会ニューヨークへやってきます。お調子者のネズミのタッカーや無口だけれど優しい猫のハリー、人間の少年マリオと仲良くなり、しばらくは楽しく暮らします。チェスターには素晴らしい音楽の才能があり、ニューヨークで名声を手に入れます。でも、だんだん都会での生活が楽しいとは思えなくなり…。本当の友情とは？と考えさせられます。私は個人的に、猫のハリーが大好きです。ガース・ウィリアムズの挿絵も素敵。

『はるとあき』斉藤倫・うきまる／作 吉田尚令／絵 小学館 2019年

この本の主人公は、なんと、季節の「春」。はるは、夏に頼んで、「秋」に手紙を書きます。冬を通じて、あきからお返事がきます。はるとあきの文通は続きます。お互い、いつか会えることを願っているはるとあきですが、当然、季節の「春」と「秋」が直接会うのはなかなか、難しいですね。二人(ふた季節?)の友情のゆくえは？



秋から冬にかけて 読みたい絵本



～どんぐりが 出てくる本～



九条子と文庫
吉村 弘子

① 『どんぐりかいぎ』

こやすすむ・文
片山 健・絵

福音館書店
かがくのとも傑作集

・どんぐりの木たちは、実を小動物たちに食べつくされて大弱り。
「どうしたら 子どもの木を育てられるだろう?」と話し合い。自然のしくみや
食料のことを考えさせられる本。

② 『14ひきのあきまつり』

いわむらかずお作 童心社

・14ひきシリーズの一冊。きのこや 落ち葉の色合いも すてきな絵本。

10ひきのきょうだいとおば「あちゃんか かくれんぼ」。なかなか見→からない
「ろくん」をさがしていると、「どんぐりみんし」のあきまつり...

③ 『どんぐりむらのぱんせさん』

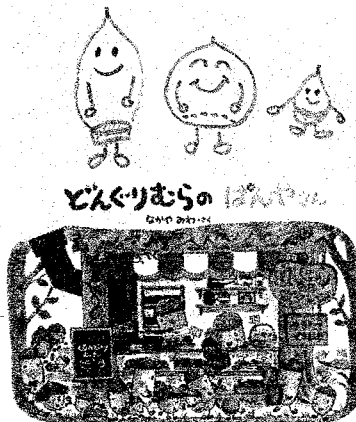
なかや みわ作 学研

「そらめくん」シリーズや「くれよん」シリーズも のわいいけれど、秋に読みたい
「どんぐりむら」シリーズ。どんぐりむらのパンセさんは、新作のパンを開発中。
それが 出来上がらないと、やえんちんに連れて行ってもらえない子どもたちが
パンを作ったら...!! お腹が 鳴りそうな食欲の秋にピッタリ!

④ 『ふゆじたくのおみせ』

ふくざわ ゆみん作 福音館書店

クマくんがヤマネくんにプレゼントしたいチョコは、どんぐり 50コのねだん。
ヤマネくんが クマくんにプレゼントしたいセーターは どんぐり 500コのねだん。
2ひきは、いっしょけんめい、どんぐりをひろいますが...。10あてを目指すお話しです。



テーマ 「夕月文庫」さんからいただいた月刊雑誌「こどものとも」より

個人会員 杉原由紀枝

今年7月末に閉館された「夕月文庫」から、1970年代末から2005年ぐらいの福音館月間雑誌「こどものとも」90冊近くを譲り受けました。その中で5歳の保育園児の孫(女兒)がお気に入りの本をご紹介します。ご存知のように「こどものとも」シリーズは、さとうわきこさん作、佐々木マキさん作など、後に堅ろう版で出された本も多い中、一番下の本以外は、雑誌体のままですので、ご覧になりたい場合は、杉原か最寄りの図書館などにお問い合わせください。

『どてのしたてやさん』長谷川摂子／ぶん 吉田道子／え こどものとも 447号 1993年

土手の上に残された針道具のはさみ、糸巻などのしたてやさんは、訪れた動物たちの注文に応じて帽子、ざぶとん、マントなどを次々に仕立てます。孫に読み聞かせると『ソーイング・ビー』(NHKBSの番組)みたい!と。レトロ感ある絵もなつかしく、したてやさん達の仕立て中のうたも楽しい。



『クリスマスのちいさなほし』オリガ・ヤクトーヴィチ作 松谷さやか訳 525号 1999年

クリスマスイヴの真夜中、子どもたちが寝静まった後、クリスマスツリーのかざり達の中で大変な出来事が。「だれがツリーの中で一番えらいか」などと言い争ううちに、ツリーのてっぺんのガラスの「ほし」が落ちて粉々に割れてしまいます。その「ほし」を求めて、きんいろのたまとピエロ、ゆきのせいのにんぎょうと とりが旅をしますが… クリスマスに相応しい絵本。



『ぶんぶんひめ』

沼野正子／作 545号 2001年

「ぶんぶんひめの かみのけは プンブン まわる ふしぎな かみのけ。あかい リボンでギュッと しぼって プンブン たびに でかけます」と始まる奇想天外なお話の絵本。とちべえ、まめぞうと共に旅するぶんぶんひめの前に、ぐるぐる巻きにされた鳥やへびが助けを求めます。先に待ち構えるのは…? 2ページ続きの絵でぶんぶんひめの活躍場面が孫はお気に入り。



『くものすおやぶん とりものちょう』

秋山あゆ子／さく 563号 2003年

虫は苦手なはずの孫が、読んで欲しいと本棚から抜きだして持ってくるのがこの本。時は江戸時代か? むしまちのはるまつりの日に「こんや くらのかの おかしを ちょうだいする かくればね」という予告状が大繁盛のお店に届き、それをくものすおやぶんが解決します。ミステリアスな展開と、くものすおやぶんならではの技が面白く、七五調の文体が楽しめます。

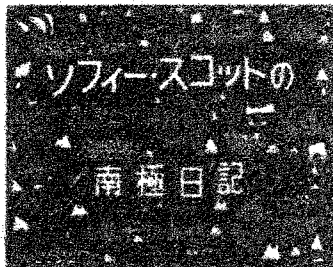


寒い季節には寒い場所のお話を、というわけで、今月の本のテーマは南極です。とはいえ、いま南極は夏、極地観測越冬隊は交代の時期です。このコロナ渦でも観測船「しらせ」は11月20日横須賀を出港しています。今回はどこにも寄港せず南極に向かうそうです。

『シャクルトンの大漂流』

ウィリアム・グリル作 千葉茂樹訳 岩波書店 2016

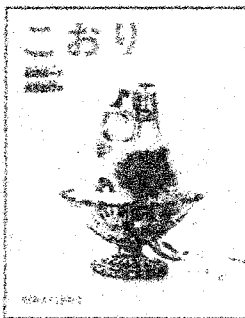
約百年前、南極大陸の横断に挑んだシャクルトンのお話です。一行の乗ったエンデュアランス号は氷に閉じ込められてバラバラに壊れ、横断どころか生存の危機に立たされます。しかし、ここからが歴史に残る大冒険の始まりでした。パワフルかつ洒落な絵本です。



『ソフィー・スコットの南極日記』

アリソン・レスター作 斎藤倫子訳 小峰書店 2013

オーストラリアの観測隊を運ぶ船長のお父さんに同行する9才の女の子の日記という設定です。ものが吹っ飛ばくらしい船が揺れたり、基地で猛吹雪に遭ってロープにつかまって移動したりと子ども目線での南極の厳しさが伝わってきます。船の中や南極の海、観測基地の様子などイラストや写真がたっぷり。どことなく夏休みの自由研究を思わせる楽しい構成です。



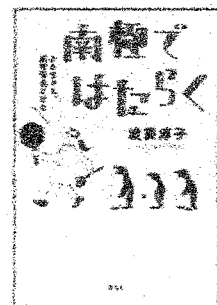
『南極ではたらく』 渡貫洋子 平凡社 2019

三度チャレンジして南極調理隊員となった渡貫さんの体験談。調理用の水も限られ生ゴミもなるべく出さない南極での料理作りは知恵と腕の見せどころです。大人の本に分類されていますが、将来何になるかとか、人との付き合い方に悩む中高生にお奨めです。つくづく料理人ってタフなんだなあと思います。

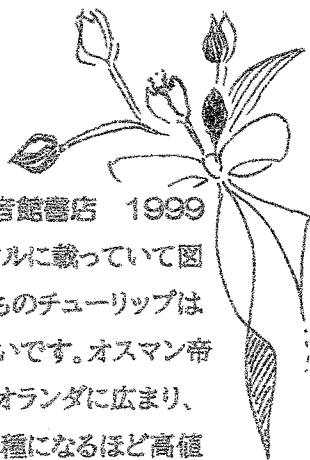
『こおり』(たくさんのふしぎ傑作集)

前野紀一文 斉藤俊行絵 福音館書店 2012

南極のまわりはソフィーが経験したような荒々しい海です。「南極周極流」という激しい海流のせいです。そこに北極海で生まれた冷たく重い「海洋深層流」がぶつかって、さらに世界中の海を巡ります。この循環が地球の気候を穏やかに保つ働きをしているのだそうです。では、そもそも「海洋深層流」はどうして生まれるのか？それは水が凍る時、溶けている物質を押し出してしまふからなのです。水が凍る変化を分かりやすく説明している絵本です。



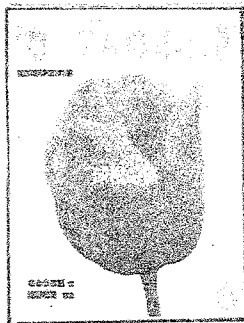
コロナ禍の自粛期間中に絵本の本棚を整理しながら、懐かしい絵本を手は何時間も座り込んでいました。少しでも春の花の彩りをお届けできればと思います。



『球根の旅』(月刊たぐさんのふしぎ)

さとうち藍 文 / 海野和秀 写真 / 福音館書店 1999

スイセン・ムスカリ・クロッカスなど様々な球根植物がカラフルに載っていて図鑑のようでもあります。その中でも、見開きのページに60種ものチューリップは圧巻です。そしてその歴史は今にも通じるものがあり興味深いです。オスマン帝国時代のトルコで元々栽培されていたのが始まりで、その後オランダに広まり、王族・貴族から珍重され、人々はチューリップを求め狂乱。新種になるほど高値で取引され、1個で大邸宅が購入できるくらい高騰したとの事。投機する対象がチューリップとは、まさにチューリップバブルです。



『桜守のはなし』

佐野藤右衛門 作 / 講談社 2012

京都で植木職人をされている佐野藤右衛門さんの写真絵本。縁側で話を聞いているかのような優しい言葉で、桜守として1年を通しての仕事を綴られています。「多くの方は、満開の時に3~5日桜を愛でるけど、あとの360日が桜にとっては大切な時間や」と語り、「手入れではなく、守りをする」という言葉に程よい距離感を保ちつつも寄り添いながら接していることを感じます。十六夜桜・御衣黄・白妙・一葉など雅な桜の名前にも魅かれます。



『おおふじひっこし大作戦』

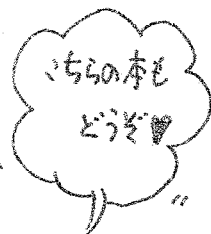
たぐさんのふしぎ 2002 ・ たぐさんのふじぎ製作集 2016

塚本こなみ 文 / 一ノ関圭 絵 / 福音館書店

日本女性初樹木医、塚本こなみさんの著書。今大変人気の足利フラワーパークですが、旧植物園から今の場所までの20キロメートルに及ぶ大引越のプロジェクトの様子が描かれています。藤の診察から始まり、藤棚の縮小、引っ越し先の土の改良、トレーラーで移動するための幹をギプスで養生するなど、細かな3年がかりの計画に読んでいてもハラハラです。関西からは遠い足利ですが、一度はりっぱに成長した藤に会いに行きたいなあ。



- ・『みどりいろのたね』たかどのほうこ 作 / 太田大八 絵 / 福音館書店 1988
- ・『さくら』長谷川摂子 文 / 矢間芳子 絵 / 福音館書店 2010
- ・『ルピナスさん』バーバラ・クローニー 作 / かけがわやすこ 訳 / ほるぷ出版 1987



京庫連だより 号外

<こんな時の読み物紹介>

新型コロナ“の感染が広がりだして1年を過ぎ、ウイルスや対策方法について研究が進んできて、子ども向けの本にも反映されています。最近出版された本の中から、4冊紹介します。

少し高学年向き

『子どもと大人の疑問に答える

新型コロナ ウイルスハンドブック』

岡田晴恵著 金の星社 2020.11 1200+税

< 同じ著者で『まんがで学ぶ!

新型コロナ知る知るスクール』ポプラ社 ‘20.11 1300+税 >

もあります。「知識のワクチン」になりそうです。

小さい人に



『おさるのジョージ ちしきえほん

わるいきんを やっつけろ』

原作：マーガレット・レイ&H・A・レイ

金の星社 2020.10 1300+税

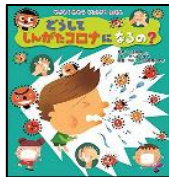
『どうしてしんがたコロナになるの』

監修：松永展明 金の星社 2020.8

編著：WILL こども知育研究所 1300+税

よく聞く“コロナ”ってこういうことだったのと、

子どもも納得。知ると手洗い・マスクなども守れますね。



クラブ・ミニにお申込みくださいました皆さま

次回お会い出来るのを楽しみにしております。